

検体搬送システム不要、XN シリーズと HLC-723 G11 による採血 1 本運用の試み

◎安藤 美恵¹⁾、大海 知磨¹⁾、槇野 友美¹⁾、橋本 まりの¹⁾、坂元 肇¹⁾
国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院¹⁾

【はじめに】2021年7月に日本糖尿病学会、日本臨床検査医学会、日本臨床化学会より HbA1c は溶血の影響を受けにくい EDTA 採血管使用の推奨が発表された。当院では、この発表を機に HbA1c の測定に EDTA 採血管への変更を検討し、検体搬送システムの導入なく血算と HbA1c の同時依頼時に 1 本で検査実施する運用を模索した。そこで、コスト削減と採血者の負担軽減、患者サービスの向上ができたので報告する。【対象】臨床検査システム(株式会社 テクノラボ)、多項目自動血球分析装置 (Sysmex 社 XN-3100, XN-1000, 以下 XN)、自動グリコヘモグロビン分析計(東ソー株式会社 HLC-723 G11, 以下 G11)にて測定する。【方法】(1)EDTA 採血 1 本で診療に影響を与えず迅速に検査結果を報告する手段の検討(2)G11 の測定に Sysmex 社サンプルラックが使用可能か東ソーへ検討依頼(3)試験管を固定できるアダプタを模索し、更に XN と G11 に共通で使用可能であることを検討(4)2 種類のアダプタを用いたサンプルラックで再度、検討(5)ホジグ No.126 を装着したサンプルラックでの動作確認実施(6) NaF と EDTA 採血管の HbA1c 相関性

の確認(7)日当直時、HbA1c 検体保存について選択方法の模索(8)臨床への承認(9)G11 機器移動、調整(10)システム変更(11)テスト後、運用開始【結果】XN はバーコードを回転させて読み取り、G11 は採血管を固定して読み取ると相反する。共通で使用可能なサンプルラックを確立し、検体搬送システムの導入なく 1 本での採血運用が実現できた。また、機器を隣接して設置することで作業を効率化し、採血本数を 1 本へ削減しても、診療に影響を与えず検査結果を迅速に報告できた。さらに、日当直時の HbA1c の保存においては、システム変更により日当直時のみ、分注ラベルが発行される運用に変更し、保存忘れのインシデント防止もできた。【まとめ】共通で使用可能なサンプルラックを確立できたことで、コストの削減と採血者の負担軽減、採血時間の短縮、患者サービスの向上ができた。

連絡先：0463-32-1950 (内線 535) 臨床検査科 安藤 美恵